

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																																
朝日医療専門学校広島校		平成20年3月11日	外山 日登志	〒 733-0812 (住所) 広島県広島市西区己斐本町1-25-15 (電話) 082-507-1212																																
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																																
学校法人朝日医療学園		平成3年3月25日	津島 伸章	〒 700-0026 (住所) 岡山県岡山市北区奉還町2-7-1 (電話) 082-214-5522																																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																															
医療	医療専門課程	柔道整復学科昼間部(午後コース)	令和 2(2020)年度	-	-																															
学科の目的	学校教育法及び柔道整復師法に基づき、柔道整復師に関する知識・技能を教授し、保健・医療・福祉などの領域において広く活躍できる人材を育成することを目的とする。																																			
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	外傷処置を特徴とする資格であるため、スポーツ現場での実習やそれに伴う応急処置(CPR・AEDや搬送方法、応急固定)、また、機能訓練施設での実習等も学び実践していくのが柔道整復学科の特徴である。取得可能な資格・検定等として、柔道整復師、機能訓練指導員、NSCA-CPT、スポーツ医学検定など。退学防止のための取り組みとして、担任等による個人面談、保護者との連絡および面談、補習および課題による学習指導を行う。																																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																												
3	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 2,770 単位時間 単位		1,510 単位時間 単位	240 単位時間 単位	1,020 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率																															
90 人	41 人	0 人		0 %	14 %																															
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>13</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>9</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>9</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>9</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>69</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>次年度の国家試験に再挑戦する者(4人) (令和 5 年度卒業者に關する令和6年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 接骨院、鍼灸接骨院、病院(整形外科)、障がい者支援施設、スポーツ業界</p>								■卒業者数(C)	13	人	■就職希望者数(D)	9	人	■就職者数(E)	9	人	■地元就職者数(F)	9	人	■就職率(E/D)	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	100	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	69	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業者数(C)	13	人																																		
■就職希望者数(D)	9	人																																		
■就職者数(E)	9	人																																		
■地元就職者数(F)	9	人																																		
■就職率(E/D)	100	%																																		
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	100	%																																		
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	69	%																																		
■進学者数	0	人																																		
■その他																																				
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無		評価結果を掲載したホームページURL																															
当該学科のホームページURL	https://hrs.asahi.ac.jp/course/judo/																																			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>2,770 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>360 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>2,770 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>360 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr> </table>								総授業時数	2,770 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	360 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	2,770 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	360 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総単位数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位
総授業時数	2,770 単位時間																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	360 単位時間																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																			
うち必修授業時数	2,770 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	360 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																			
総単位数	単位																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																																			
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																																			
うち必修単位数	単位																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																																			
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																																			
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して6年以上となる者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>7 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>7 人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td>7 人</td> </tr> </table>								① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して6年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	7 人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人	計		7 人			7 人							
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して6年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	7 人																																		
② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人																																		
③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																		
④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																																		
⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人																																		
計		7 人																																		
		7 人																																		

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

柔道整復師の国家試験合格が当学科では重要であるが、卒業後即戦力となれるように、実際の臨床現場で培った経験値に基づいて指導を受け、臨床現場で起こりうる意見を十分に取り入れ教育課程を編成する。具体的には、臨床で遭遇する各疾患について、問診、視診、触診、徒手検査などの評価から整復および固定までの個別トレーニングを行う。また、各疾患のシミュレーショントレーニングにて総合的な能力向上させ、各疾患に対しての実践能力を一定の基準まで引き上げる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校長の監督する諮問機関のうち特別委員会として、教育課程編成委員会を置く。教育課程編成委員会で出た学修成果等に関する評価およびカリキュラム改善等の意見は、常置委員会のうち教務委員会に報告のうえ、教務委員会で改善方策等の見直し(案)の承認を得たのち、柔道整復学科会議にてカリキュラム等の改善に反映し、校長の許可を経て決定する。

(教育課程編成委員会から改善方策等の提言 → 教務委員会にて審議のうえ見直し(案)の承認 → 柔道整復学科会議にてカリキュラム等の改善に反映 → 校長の許可)

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
土方 政幸	公益社団法人広島県柔道整復師会 理事 (うじな東巴堂鍼灸整骨院 院長)	令和5年4月1日～令和7年3月31日	①
中村 崇弘	己斐なかむら鍼灸接骨院 院長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
長岡 正樹	長岡接骨院 院長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
外山 日登志	朝日医療専門学校広島校 校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	—
吉川 崇倫	朝日医療専門学校広島校 教務部 課長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	—
河原 一仁	朝日医療専門学校広島校 教務部 主任	令和5年4月1日～令和7年3月31日	—
山田 修平	朝日医療専門学校広島校 柔道整復学科 学科長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	—
柿原 和之	朝日医療専門学校広島校 事務部 次長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、3月)

(開催日時(実績))

2023年度(第1回) 令和5年9月 3日 14:00～15:00

2023年度(第2回) 令和6年3月10日 14:00～15:00

2024年度(第1回) 令和6年9月 1日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

2023年度(第1回および第2回)において、臨床実習先で遭遇する疾患の鑑別方法(問診、視診、触診、徒手検査)が何を主として施術しているのかという点において、学生によってとらえ方が違うと感じるなどの意見があった。さまざまなことに興味関心のある世代の学生が多い現代では、多様性という観点からも、2024年度のカリキュラム編成において、デイサービス実習、スポーツ現場実習などを見直し、1年次から興味・関心が強く、食いつきの良い臨床実習が経験できるよう鑑別能力の向上が実感できるシミュレーション実習の反復に時間を費やし実践した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

以下の項目において、総合的に判断して連携先を決定する。

①柔道整復師専科教員免許を取得していること、②学生指導の経験があること、③学生教育上必要であること、④本校教員よりもその分野において優れていること。また、教科書的な整復・固定技術にとらわれることなく、より実践的で安全な方法を臨床家の先生から学び、資格取得後に即戦力となれるような内容を教授いただく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教員資格を有する企業等の職員と講師契約を締結し、実習・演習等の科目担当者としてシラバスの作成、授業の実施、定期試験の実施により、学生の学修成果について評価する。臨床で遭遇する各疾患について、問診、視診、触診、徒手検査などの評価から整復および固定までの個別トレーニングを行う。また、各疾患のシミュレーショントレーニングにて総合的な能力向上させ、各疾患に対しての実践能力を一定の基準まで引き上げる。学習成果の評価は、本校の教員を立会人として同席させ定期試験を実施する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
応用柔道整復実技Ⅳ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	柔道整復の臨床現場において遭遇する主な外傷(骨折・脱臼・軟部組織損傷)に対応できる能力(初検・整復・処置)を身につける。	長岡接骨院
保健体育Ⅰ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	柔道着の着方・礼法・基本姿勢、組み方・歩き方・体さばき・受け身・打ち込み・投げの形(手技、腰技、足技)約束稽古柔道の基礎をしっかり学び怪我をしないよう形をおこなえるようになる。	よこがわ接骨院
保健体育Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	礼法、受け身、打ち込み、乱取、投げの形(手技、腰技、足技)柔道認定実技審査の合格をめざす。	よこがわ接骨院

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 教員一人ひとりが、学校の教育方針・教育目標を十分に理解し、それぞれの専門性を最大限に発揮するために、さまざまな機会を通じて研修を受講し、自己研鑽に励み、必要な知識・技能を習得のうえ、実践的な指導力の向上を図る。また、「教育職員研修規定」に基づき、職務の遂行に必要な知識、技能等を修得し、資質の向上を図る。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	広島県柔道整復師会 令和5年度第1回匠の技～広島県伝導講習会～	連携企業等: 公益社団法人広島県柔道整復師会
期間:	令和5年6月18日	対象: 教員(柔道整復師)
内容:	超音波観察装置を使った骨折の整復	
研修名:	日本柔道整復師会 第46回中国学術大会岡山大会	連携企業等: 公益社団法人広島県柔道整復師会
期間:	令和5年8月6日	対象: 教員(柔道整復師)
内容:	肩関節周囲炎に対するサイレントマニピュレーションについて	
研修名:	広島県柔道整復師会 令和5年度第1回定期学術講習会	連携企業等: 公益社団法人広島県柔道整復師会
期間:	令和5年9月10日	対象: 教員(柔道整復師)
内容:	画像診断を用いない脊椎疾患の診断法	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	柔道整復学校協会 第65回教員研修会	連携企業等: 公益社団法人柔道整復学校協会
期間:	令和5年9月23日～9月24日	対象: 教員
内容:	Z世代の学生を国家試験合格に導く目標達成の技術	
研修名:	教職員研修会	連携企業等: 公益社団法人広島県専修学校各種学校連盟
期間:	令和5年11月8日	対象: 教職員
内容:	消費税インボイス制度について	
研修名:	設置者・校長・管理者研修会	連携企業等: 公益社団法人広島県専修学校各種学校連盟
期間:	令和6年2月15日	対象: 設置者・校長・管理職
内容:	私立学校法の改正など「専修学校を取り巻く現状と課題」について	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 広島県柔道整復師会 令和6年度第1回定期学術講習会	連携企業等: 公益社団法人広島県柔道整復師会
期間: 令和6年9月8日	対象: 教員(柔道整復師)
内容: 脳脊髄液漏出症について	
研修名: 匠の技 技術講習会 広島県・山口県共同開催	連携企業等: 公益社団法人広島県柔道整復師会
期間: 令和6年10月20日	対象: 教員(柔道整復師)
内容: 頭骨遠位端部骨折の実技(エコー、整復、固定)	
研修名: 広島県柔道整復師会 令和6年度第2回定期学術講習会	連携企業等: 公益社団法人広島県柔道整復師会
期間: 令和7年2月16日	対象: 教員(柔道整復師)
内容: 「第五中足骨骨幹部疲労骨折の症例報告」「接骨院と他職種連携について」「原因不明の膝の痛み-問診の重要性-」	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 全国柔道整復学校協会 第66回教員研修会	連携企業等: 公益社団法人全国柔道整復学校協会
期間: 令和6年9月21日～9月22日	対象: 教員
内容: 「教育に生かすコミュニケーション技術」「効果的な初年次教育について」	
研修名: 教職員研修会	連携企業等: 公益社団法人広島県専修学校各種学校連盟
期間: 令和6年11月6日	対象: 設置者・校長・管理職・教職員
内容: 学生のやる気を引き出す言葉の力	
研修名: 教職員研修会	連携企業等: 公益社団法人広島県専修学校各種学校連盟
期間: 令和6年11月20日	対象: 設置者・校長・管理職・教職員
内容: 学生に向き合うための感情のコントロール	

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専修学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」に則り、自己点検自己評価・学校関係者の評価結果等を公表することにより、本校の教育活動・学校運営に関する現状や課題を示すことで、企業等の学校関係者との相互理解を深めることで連携を強化し、教育活動・学校運営の改善につなげることを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	沿革、教育理念および人材育成像、教育目標
(2) 各学科等の教育	授業カリキュラム、単位認定、成績評価、国家試験対策、国家試験合格率
(3) 教職員	教職員数、研修制度、同窓会
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職・進学支援、卒後支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	単位互換制度、学校行事、課外活動、図書室、自習室
(6) 学生の生活支援	クラス運営、学友会
(7) 学生納付金・修学支援	奨学金、教育ローン、学費サポート制度
(8) 学校の財務	財務情報
(9) 学校評価	自己点検・自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://hrs.asahi.ac.jp/?m=about/disclosure/index>
公表時期: 令和6年6月17日

授業科目等の概要

(医療専門課程 柔道整復学科基幹部(午後コース))														
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	授業方法			場所		教員	企業等との連携
								単	講	演	実	校		
								位	義	習	験	内	任	
	○			人文科学Ⅰ	コミュニケーション学 (通信講義)	2前	90	2	○			○		○
	○			人文科学Ⅱ	カウンセリング入門 (通信講義)	2前	90	2	○			○		○
	○			社会科学	高齢者のからだと健康 (通信講義)	2前	90	2	○			○		○
	○			自然科学Ⅰ	人間の身体 (特に筋骨格系の構造と機能) に関する知識、理解を深める。	1前	40	2	○			○		○
	○			自然科学Ⅱ	人間の身体 (トレーニングの基礎、面談、体力評価等) に関する知識、理解を深める。	1前	40	2	○			○		○
	○			自然科学Ⅲ	スポーツや健康に対する基本的な知識、評価技術、法的諸問題、スポーツ心理学の基礎を習得することを目的とする。	1後	40	2	○			○		○
	○			自然科学Ⅳ	身体の仕組みについて学ぶことにより、正常な身体の機能と障がい者の身体の機能や障がい者スポーツに対しての知識、理解を深める。	1前	40	2	○			○		○
				解剖学Ⅰ	人体を構成する様々な細胞、組織、器官、臓器がどのように協調しながら、1つの個体を形作っているのかを学ぶ。	1前	80	4	○			○		○
				解剖学Ⅱ	人体を構成する様々な細胞、組織、器官、臓器がどのように協調しながら、1つの個体を形作っているのかを学ぶ。	1後	80	4	○			○		○
				生理学Ⅰ	柔道整復師として必要な生理学の基礎知識の習得及び国家試験に合格できる学力を身に付ける。	1通	80	4	○			○		○
				生理学Ⅱ	柔道整復師として必要な生理学の基礎知識の習得及び国家試験に合格できる学力を身に付ける。	1後	40	2	○			○		○
				社会保障制度	社会保障や保険の仕組みを理解させ、適正な柔道整復療養費の取り扱いに繋げる。	1後	20	1	○			○		○
	○			基礎柔道整復学Ⅰ	柔道整復の歴史を学ぶとともに、現在における柔道整復師の果たすべき役割、業務範囲などを理解する。また、各組織の損傷の特徴、評価方法、治療法の基礎を理解する。	1通	60	3	○			○		○
	○			柔道整復実技Ⅰ	基礎的な固定法から、臨床に用いる方法までを学ぶ。	1後	80	2				○		○
	○			柔道整復実技Ⅱ	スポーツ教護をするにあたって必要なケガの知識や応急処置、予防テーピング技術の習得を目標とする。	1前	80	2				○		○
	○			柔道整復実技Ⅲ	骨のランドマーク、関節 (関節・韧带) の触診、主要な筋の触診を習得し、修復・固定実技に生かす。	1通	80	2				○		○
				運動学	解剖学、生理学の基礎知識を確認しながら身体の動きを科学的に理解する考え方を構築する。	2後	40	2	○					○
	○			病理学概論	人体の疾病に関する一般的事項及び各病変の概要について理解し、これを施術に応用する能力と態度を身に付ける。	2前	40	2	○			○		○
	○			外科学概論	具体的な外科的疾患の理解と基礎的科学思考力を身に付ける。	2前	40	2	○			○		○
				整形外科学	運動器の基礎知識、整形外科の診察法・検査法・治療法、整形外科疾患の病態・診断・治療法を学ぶ。	2後	40	2	○			○		○
				衛生学・公衆衛生学	保健・医療・福祉等の基礎知識を習得し、チーム医療の一員として地域医療に貢献できるようにすることを目的とする。	2前	40	2	○			○		○
	○			関係法規・職業倫理	柔道整復師法を中心に、関係する法規を理解させるとともに、柔道整復師の社会的責任や倫理観を実践できるよう、具体的事例を通して身につけ資格取得後の法令順守について学ぶ。	2前	40	2	○			○		○
	○			保健体育Ⅰ	柔道着の着方・礼法・基本姿勢、組み方・歩き方・体さばき・受け身・打ち込み・投げの形(手技・膝技・足技)約束種目柔道の基礎をしっかりと学び怪我をしないよう形をおこなえるようになる。	2通	80	2				○		○
	○			基礎柔道整復学Ⅱ	上肢の脱臼・軟部組織損傷・骨折の名論を学び、国家試験レベル及び後期から始まる実技に対応できる知識を身に付ける。	2通	80	4	○			○		○
	○			基礎柔道整復学Ⅲ	下肢・体幹においては基礎理論の習得は基より荷重関節という側面があるため、機能解剖を踏まえた疾患のとらえ方を学習することを目的とする。	2通	80	4	○			○		○
	○			基礎柔道整復実技Ⅳ	柔道整復師に必要な診察の能力を養うことを目的とする。	2後	40	2	○			○		○

27	○	応用柔道整復 実技Ⅰ	骨折、脱臼の評価から整復までを合併症等を 確認しながら実施できるようになること を目的とする。 軟部組織損傷の評価から処置までを理解 し、実施できるようになることを目的とす る。	2 後	80	2			○	○	○			
28	○	応用柔道整復 実技Ⅱ	応急処置だけでなく、継続的に使用する 固定具の作成および固定する能力を培うこ とを目的とする。	2 通	80	2			○	○	○			
29	○	応用柔道整復 実技Ⅲ	機能訓練指導員として通所介護などの介護 施設で活躍できる柔道整復師を育成する。 柔道整復師として必要な足・膝・腰部・肩 等の基礎的な運動療法の知識・技術を修得 する。	2 通	80	2			○	○	○			
30	○	一般臨床医学	診察の基本的事項と内科疾患を中心に学 ぶ。柔道整復師が臨床現場で注意を払わな ければならない症状・所見の理解を深める とともに、国家試験に合格できる学力を身 に付けることを目的とする。	3 前	80	4	○			○			○	
31	○	リハビリテ ーション医学	リハビリテーションの対象疾患について、 病態、障害、方法など広くリハビリテー ションの意味を理解し、柔道整復師として 地域医療や地域発展に貢献するための基本 的な知識と態度の獲得を目標とする。	3 前	40	2	○			○			○	
32	○	柔道整復術の 適応	患者の病態を適正に把握するために病態の 説明と放置した場合の合併症、危険性など 柔道整復師に求められる知識を得ることを 目的とする。	3 後	40	2	○			○			○	
33	○	保健体育Ⅱ	礼法、受け身、打ち込み、乱取、投げの形 (手技、寝技、足技) 柔道認定実技審査の合格をめざす。	3 前	80	2			○	○			○	○
34	○	臨床柔道整復 学Ⅰ	柔道整復の臨床現場において必要な外傷の 知識や物理療法機器等の知識や使用方法を 身につける。	3 前	40	2	○			○			○	
35	○	臨床柔道整復 学Ⅱ	柔道整復学的な所見に加え、医学科学的な所 見から臨床における疾患の評価、鑑別の方 法を学ぶ。	3 後	40	2	○			○			○	
36	○	臨床柔道整復 学Ⅲ	臨床応用に必要な要点を再学習し、臨床並 びに国家試験に対応できる能力を身につけ る。	3 後	40	2	○			○			○	
37	○	臨床柔道整復 学Ⅳ	臨床において柔道整復をおこなうにあた り、最低限必要である人体の生理機能を学 ぶとともに、施術や業務に活かせるように 理解を深める。	3 前	80	4	○			○			○	
38	○	臨床柔道整復 学Ⅴ	臨床に対応できる能力を養うため、機能解 剖の観点から考察できる能力を養うことを 目的とする。	3 後	80	4	○			○			○	
39	○	臨床柔道整復 学Ⅵ	骨折・脱臼・軟部組織損傷の基礎を復習し ながら、臨床でよく遭遇する外傷をより深 く理解する事を目的とする。	3 後	80	4	○			○			○	
40	○	応用柔道整復 実技Ⅳ	柔道整復の臨床現場において遭遇する主な 外傷（骨折・脱臼・軟部組織損傷）に対応 できる能力（初検・整復・処置）を身につ ける。	3 通	##	5			○	○			○	○
41	○	臨床実習Ⅰ	スポーツ現場実習（見学）	1 通	45	1			○	○	○			
42	○	臨床実習Ⅱ	高齢者の運動療法およびデイサービス実習	1 通	45	1			○	○	○			
43	○	臨床実習Ⅲ	スポーツ現場実習	2 通	45	1			○	○	○			
44	○	臨床実習Ⅳ	接骨院、整形外科、トレーナー、機能訓練 等の業務内容を理解および実践できること を目的とする。	2 通	45	1			○	○	○			
合計					44	科目	105(2770) 単位(単位時間)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：全単位取得		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：全科目必修		1 学期の授業期間	20 週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。